


テーマ「子どもの本音を聞き出す 教育相談の理論と方法について」

講師 戸倉


子どもの本音を聞き出す 教育相談の理論と方法



那珂市教育支援センター 戸倉 花子

教育相談の土台 (カウンセリング・マインド) 2 *

- **傾聴**
心を聞き、心で聴く。話し手が伝えたい気持ちにも心を傾ける。決して、『決めつけない』、『詮索しない』、『自分の話はしない』
- **共感 (共感的理解)**
聴いた話を相手の身になって理解する。または、理解しようと努める。話し手の立場で感情を想像し、味わう(味わおうとする)こと。
- **受容**
相手を否定せず、今のまま、ありのままの相手を受け入れる。



先生と児童生徒のリレーション (関係) づくり 3 *

- **リレーション**
お互いに構えない、ふれあいのある本音の感情交流。相手に対して心が開かれていて、信頼関係があること。
- **リレーションの3つの効果**
 - ① 問題の発生を未然に防ぐことができる。
 - ② 問題の解決が早く効果的である。
 - ③ 信頼感をもつ児童生徒を育てることができる。

スムーズなリレーションづくりには ⇒ 先生が**自己開示**することと**共感**をもって児童生徒の話聴くことが大事。


教育相談を行う上での留意点 4 *

- 「相談」と「指導」のちがいは

相談 **話を聴く** ⇒ 子どもの**内面**を理解する


指導 **話をする** ⇒ 子どもの**行為**の改善を図る

まずは、「内面を受け入れて」から「改善の指導」を行う



話を「聴く」ための大事なポイント 5 *

- ① 子どもが安心して話せる雰囲気をつくる
- ② 先入観をもたずに話を聴く
- ③ 質問をできるだけ控える
- ④ 子どもから語られる言葉をじっくり待つ
- ⑤ 勝手な解釈や評価、批評はしない
- ⑥ 気持ちを理解したことを伝え返す
- ⑦ 話してくれたことを労う



まとめ 6 *

助言やアドバイスよりも『傾聴』・『共感』・『受容』を

子どもから自己解決の力を引き出す

原因探しよりも、まずはリソース探し

解決のゴールは勝手に決めずに子どもに聴く

日頃の対話や言葉掛けを意識して良い循環・関係をつくる

子どもの理解

終わりに 7 *

教育相談・・・子どもの心のSOSを受け取る機会
子どもの本音を聞き出す教育相談の核となるもの

↓


子どものありのままを受け入れ、共感しようとする姿勢

その上で、ラポール形成から始まり、傾聴や適切な質問を組み合わせることで、子どもは安心して自分の心を語り始めることができます。
ぜひ、子ども一人ひとりに寄り添った相談を実践してみてください。

おまけ 8 *

先生方の『心の健康』にも十分気を付けてください

- 相談できる人はいますか？
- 一人で抱え込んでいませんか？
- 周りの方々と連携して、時には分担することも大事です。
- 心身のリフレッシュをすることで気持ちに余裕が生まれ、その結果として、子ども達に良い関わりができます。



○感想一覧

- ・日曜劇場の「19番目のカルテ」、主役の松本潤が演じる徳重先生の患者との関わりは、教育相談として参考になる。徳重先生の言葉や動作はもちろんのこと、患者との相談の間が素晴らしいと感じている。このようなことを思い浮かべながら、戸倉さんの話を聞かせていただいた。
- ・説明資料も分かりやすく、大変勉強になった。ロールプレイは、クラスの子も好きでたまに取り入れている。実際にやってみて楽しく学ぶことができた。今後の指導にも取り入れていきたい。
- ・子ども自らが相談したくなるような聴き方や姿勢を大切にしていきたいと感じた。子どもから相談があった場合も、子どもの思いをしっかりと受け止めてあげられる担任になりたいと思った。
- ・ロールプレイの演習は、子どもの気持ちに気づけたり、どんな態度で接したりすれば良いのか、改めて考える機会となった。時間のなかでも、子ども達に寄り添えるようにしていきたい。
- ・子どもが「なかなか本音を話してくれないな～」と思うこともあったが、戸倉先生の話聞いて、話してくれなくても日々の信頼関係をこつこつ積み上げていくことが大切だと感じた。いざという時につながるよう、安心感を与えられるような関わり方をしていきたい。
- ・意識せずに子ども達、保護者との関係が崩れてしまうことがある。今回の講義を本校職員にも聞いてもらいたいと思った。
- ・相談と指導で行う点での留意点の違いを学べたので、実践していきたいと思う。
- ・2学期からの子ども達との関係をつくっていく上で大変勉強になった。自分と子どもとの関わり方の中で実践していけるよう、意識して生活していきたい。
- ・子ども達が相談にきたときに、相手に寄り添い、ありのままを受け入れられる教師でいたいと思った。相談事ができたときに「〇〇先生に話がしたい」と思ってもらえるよう普段から生徒との関係づくりに努めていきたい。
- ・2学期には、クラス全員との相談をしてみたいと思う。互いが認め合える集団をつくるため、クラスの中でできる SST など、すぐに使える技をもっと教えていただきたいと思った。
- ・分かってはいても、どうしても決めつけたり、先入観をもって話を聞いてしまったりしていたので、子どもに寄り添って話を聞きたいと改めて確認できた。
- ・教育相談における心構えが、戸倉先生の丁寧な説明でよく分かった。普段の生徒指導の場面でも心に留めて実践していきたいと思った。
- ・好ましい話の聴き方を読むだけでなく、一人一人に考えさせるともっと盛り上がったと思った。素晴らしい話が聞けて勉強になった。
- ・相手にとって話しやすいように、「傾聴、共感、受容」を特に意識したいと思った。心にゆとりをもって、接することができるようにしていきたい。
- ・学級担任ではないため、悩んでいる子どものことも分からない中、話を聞いたり、相談に乗ったり、保護者対応したりすることの難しさを日々感じている。逆に担任外だからこそ、容易にできることもあるので、話の聴き方、理解の仕方を研修して今後にかかしていきたいと思う。
- ・ロールプレイなど、実技が入っていたのが良かった。保健室で児童と接する時に、その子の内面にせまることができるよう、これからも頑張りたいと思った。